

令和3年度事業報告書　－グループホーム白楽荘みくにの里－

テーマ：自然災害や感染症対策により、入所者・利用者の安心・安全な望む暮らしの支援と
地域住民と支え合う仕組みづくりを目指す

サブテーマ：地域の中で共に暮らし続け、充実した毎日を送ることができるよう生活をする

1. 利用者の心身機能に応じ支援することで、安心・安全な生活が送ることができる

- ①利用者には可能な限り定期的他科受診を継続できるよう支援した。
- ②県のコロナ感染状況に合わせて、面会制限(ガラス越し)時期には、電話・お便り・LINE 配信などを利用し、利用者家族への理解を図ることができた。
- ③科学的介護(LIFE)推進加算に合わせ、管理栄養士と協同しホーム内での季節メニューの提供・個人の能力に応じた行事・クラブ活動・レクリエーション等を企画し、利用者の満足度を高めた。
- ④県内地域の新型コロナ感染状況を把握し、みくにの森クリニックと連携、抗原検査を実施するなど感染対策を徹底し、職員・利用者とも感染者ゼロでグループホーム内での生活を継続することができた。

2. 一人の人としての尊厳が守れる認知症ケアを継続する

- ①利用者一人一人の認知レベルに応じ、能力が発揮できる支援活動を取り入れ、サービスを提供することで「その人らしさ」を大切にされたケアを実施することができた。
- ②利用者は二週間に一回みくにの森クリニックに受診し、日々安定したホーム生活を過ごされるよう体調管理することができた。

3. 働きやすい職場作り

- ①施設内外研修を推進、外部研修ではWEBで認知症実践者研修の受講者1名、法人内では毎月のテーマ別勉強会の出席を促し多数の参加あり、自己研鑽に励んだ。また、身体拘束・虐待防止への

意識として「虐待芽摘みチェック表」で不適切ケアの防止に努めた。グループホーム会議の中で、認知症ケアについて専門職の知識・技術向上を図った。

② 職場内にチームスローガンを掲示することで、常にチーム内での目標意識を継続することができた。

③ 法人内で新型コロナのクラスターが発生したが、感染症対策の強化実施に努め、感染者を出さずにすんだ。自然災害・緊急時対応訓練を、フロアごとに日程を組み訓練を実践し、今後も非常時の備えと対策を強化、現状に応じた対応力を継続していく。